



TITLE:

記事 ウィンチ教授特別講演会

AUTHOR(S):

八木, 紀一郎

CITATION:

八木, 紀一郎. 記事 ウィンチ教授特別講演会. 経済論叢 1988, 142(2-3): 310-311

ISSUE DATE:

1988-08

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/134256>

RIGHT:

經濟論叢

第 142 卷 第 2・3 号

オーストリア經濟思想史研究の課題と方法……	八 木 紀一郎	1
W. A. ルイスの世界システム論……	小野塚 佳 光	12
社会的欲求の充足と財政組織……	山 田 浩 貴	31
ターンパイク・モデルの初期調整プロセス……	長 沢 克 重	49
技術革新と雇用……	ジャンカルロ・ノンニス	70
戦後日本電機企業の海外進出……	薛 文 肇	93

書 評

向 寿一著「世界マネー循環と多国籍銀行」…	小 倉 明 浩	117
-----------------------	---------	-----

經濟学会記事

昭和 63 年 8・9 月

京都大學經濟學會

ウィンチ教授特別講演会

5月27日（金）午後2時半より、法経北館会議室において、サセックス大学副学長代理 Donald Winch 教授の特別講演会が盛会裡に開催された。ウィンチ教授の名は、いわゆる“自由貿易帝国主義”論争にかかわってウェイクフィールド植民論の再認識を試みた処女作『古典派政治経済学と植民地』（杉原四郎・本山美彦訳、未来社）によってわが国でもよく知られているが、アダム・スミス政治学の再評価（永井義雄・近藤加代子訳『アダム・スミスの政治学』ミネルヴァ書房）から、19世紀イギリス政治科学史、さらに、ケインズ経済学の歴史的検討にいたる幅広い守備範囲をもった経済思想史家である。

今回の講演のテーマは、Keynes, Keynesianism and State Intervention（ケインズ、ケインズ主義と国家介入）で、最近のケインズ主義をめぐる議論をふまえて、ケインズとケインズ主義をイギリスの国家・政治機構からみていこうとしたものであった。要旨は以下のとおり：

公共部門の拡大と福祉国家的政策の拡充によって特徴づけられる、近年のいわゆる“ケインズ主義”は、統制経済的な政策運営を嫌ったケインズその人の考え方とは異なっている。ケインズは、自分の提案が、様々な国家形態に等しく適用可能な技術的提案だと考え、イギリスにおいても必要な改革は大蔵省の宮廷革命だけで十分だと考えていた。いいかえれば、ケインズ政策は党派的な意味では a-political だったのであり、彼は二大政党を横断してその進歩派に訴えていた。ケインズに対する大蔵省を中心とした官僚層の抵抗も、当時の国家機構管理上の課題、官僚層の教育と経験、等にも配慮して歴史的に理解されなければならない。しばしば、イギリス労働党内閣とスウェーデン社会民主党内閣のケインズ政策への態度が対比的に論じられるが、1932年に政権についたスウェーデン社会民主党はイギリス労働党の失敗から学ぶ時期があったということ、失業保険の確立していない後進的スウェーデンでは失業救済の公共事業に重点がおかれたことも重要である。ケインズ以降、完全雇用と福祉国家政策が拡充されコーポラティズムが発展したが、こうした状況下では賃金政策が高度に政治的な問題となることをケインズは予見していた。

なお、この記事の作成にあたっては、大学院生 久保雅弘・服部茂久両君の協力を得た。

(八木 紀一郎)